

## 日本鐵鋼協會記事

**第14回通常總會開會** 場所東京市麴町區有樂町1丁目1番地 生命保險會社協會々館に於て昭和4年3月30日午後2時30分より會長の卷頭掲載の開會之辭に始まり議事、講演、晚餐會等開會せり詳細は總會記事に掲載する處とす

**理事會** 昭和4年4月10日(水曜日)午後4時30分開會 **出席者** 俵國一君 種子田右八郎君 香村小録君 鹽田泰介君 川上義弘君 外に深田辨三君研究事項あり出席す **協議事項** 1)5月中に於て開催の通例講演會(加藤孝治君出演)の時日決定に關する件

昭和4年5月29日水曜日午後4時30分より保險會社協會館二階大談話室に於て開會と決定  
2)萬國工業會議に論文提出希望者援助に關する件、(可決) 3) 萬國工業會議開催中本會に於て外人招待會等の有無照會回答に關する件

外來者の氏名確明の上協議する事あるも目下未決の旨回答する事

4) 本會事務所々在地町名番地改正に關する件

改稱町名番地 東京市麴町區丸ノ内3丁目2番地東7東七號館

以上により本會定款第一章第一條中の所在地名變更の件文部省へ認可願提出及社團法人變更登記申請する事(全部決濟す)

5) 八幡製鐵所長官中井勵作氏名を以て昭和4年度より本會維持會費13口に相當金額贖出の件承諾の件、6) 英國ケルピン賞牌受領候補者として本會より本多光太郎博士推薦の件、7) 入退會者承認等にして午後8時閉會す

**編輯委員會** 昭和4年4月10日(水曜日)午後5時開會 **出席者** 川上義弘君 室井嘉治馬君 田中清治君 足立泰雄君 海老原敬吉君 鹽澤正一君 **協議事項** 1) 鐵と鋼第15年第4號上掲原稿選定の件、2) 萬國工業會議へ提出論文に關する件、3) 鐵と鋼第11年より向10ケ年目次編纂に關する準備の件、4) 上3)に關し八引出付4000枚入カードケース購入及カード4000枚購入の件、(可決)以上の通りにして午後8時散會す

### 社団法人 日本鐵鋼協會第十四回通常總會記事

1) **開會場所** 東京市麴町區有樂町1丁目1番地 生命保險會社協會館二階大談話室

2) **開會日時** 昭和4年3月30日(土曜日)午後2時30分

3) **出席者** 總數 80餘名

前會長鹽田博士御旅行先神戸より開會中に「ハルカニセイカイヲシユクス」の祝電到着せり

開會の定刻午後 2 時 30 分會長服部 漸博士先づ開會之辭として本誌卷頭に掲載の如く昨年度に於ける内外製鐵鋼業の概況に就て演説あり午後 3 時 20 分會長服部博士議長席に着し下記の議案及び報告を審議せり

議 案

昭和參年度會務報告 (自昭和 3 年 3 月 1 日) (至昭和 4 年 2 月 28 日)

1 集 會	通 常 總 會	1 回	理 事 會	12 回		
	評 議 員 會	1 回	編 輯 委 員 會	12 回		
	講 演 會	2 回	研 究 部 會	1 回		
2 會 員 異 動	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入 會 者	—	10(11口)	—	69	124	203
退 會 者	—	—	—	49	104	153
死 亡 者	1	—	—	5	8	14
死亡者氏名	名譽會員	男爵 中村雄次郎君				
	正 會 員	谷 廣賢君 野尻 狂介君 伊藤幸次郎君 石澤 命春君				
		松浦 和平君				
	准 會 員	齋藤 親廣君 中島 仙次君 吉元委倭雄君 久住 辨二君				
		白水 孝一君 梅田 重一君 星 太 一君 井上 忠二君				

以上會員 13 氏を喪ひたるは哀悼の至りなり。

尙上記の計に接しては直に吊詞を贈呈し哀悼の意を表し置けり。

3 會 員 總 數

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
3 年度末現在	7	24(34口)	20	737	583	1,371
前年同期比較	減 1	增 10(11口)	—	增 15	增 14	增 36
備 考	本年度に於て新に維持會員に加盟せられたるは 10 社 10 口にして口數を増加せられたるは 1 社 1 口なり。其社所名並に口數下記の如し。					

日本鋼管株式會社(増加)	1 口	東洋製鐵株式會社	1 口
住友伸銅鋼管株式會社	1 口	株式會社大島製鋼所	1 口
東海鋼業株式會社	1 口	株式會社川崎造船所	1 口
川崎造船所葺合工場	1 口	株式會社淺野小倉製鋼所	1 口
株式會社淺野造船所	1 口	富士製鋼株式會社	1 口
大阪製鐵株式會社	1 口		

4 編輯委員更迭 同委員杉村伊兵衛君は昭和 3 年 12 月辭任に付、昭和 4 年 1 月中、海老原敬吉君を同委員に囑託せり。

5 事務員更迭 昭和 3 年 12 月 21 日事務員赤羽朝彦辭任に付、後任者霜島爲三郎就任せり。

6 編輯人兼發行人變更 本會機關誌『鐵と鋼』編輯人兼發行人は赤羽朝彦名義なりしが辭任に付き村松橋太郎に引繼き其旨昭和 3 年 12 月 12 日附を以て警視廳へ届出せり。

7 會誌及印刷物の刊行 本會々誌『鐵と鋼』は第 14 年第 3 號より第 15 年第 2 號迄毎月 1 回發行せり、其他日本鐵鋼協會第 4 回講演大會講演大要を刊行し會員一般に配布せり。

8 調査事項 昭和 3 年 11 月 28、29 日第 4 回講演大會を機とし大阪市に於て第 3 回研究部會を第 1 部、第 2

部に分ち開會せり、其研究項目下の如し。

第1部 研究討議項目、『我國に於てトーマス製鋼法採否に關する件』

第2部 研究討議項目、『鐵鑄物改善に關する件』

9 圖書寄贈總受數 本年度に於て寄贈を受けたる圖書部數合計 320 部なり。

10 講演會 本年度中本會に於て開會せる講演會演題及講演者次の如し。

- |  |     |      |        |
|--|-----|------|--------|
| 1) 前年度に於ける内外製鐵鋼業の概況(第 13 回總會開會之辭)                      | 前會長 | 工學博士 | 鹽田泰介君  |
| 2) 熔鑄爐に關する最近の傾向に就て                                     |     | 工學士  | 鵜瀨新五君  |
| 3) 製鐵技術進歩の趨勢   |     | 工學博士 | 河村曉君   |
| 4) 最近鐵鋼科學研究の趨勢   |     | 理學博士 | 本多光太郎君 |
| 5) 熔銑爐採業に於ける低炭素セミスチール製造に關する基本的研究                       |     | 工學士  | 堀切政康君  |
| 6) 黒心可鍛鑄物製造に用ふる充填材料に就て                                 |     | 工學博士 | 澤村宏君   |
| 7) 鑄鐵の黒鉛の形狀に就て   |     | 工學士  | 齊藤豐三君  |
| 8) 高溫度に於ける鑄物砂の性質                                       |     | 工學博士 | 三島徳七君  |
| 9) 鐵鋼事業の日支關係   |     |      | 盧成章君   |
| 10) 陂來士鑄鐵の實用化に就て                                       |     | 工學士  | 瀨戸靜夫君  |
| 11) 熔鑄爐内に於ける珪素の還元に對する實驗                                |     | 工學士  | 田中清治君  |
| 12) 本邦と米獨との鐵鑄石資源比較                                     |     | 工學士  | 田上禎吉君  |
| 13) 輕合金の硬化   |     | 工學士  | 松山寛慈君  |
| 14) インゴットケースの研究  |     | 工學士  | 西津靄吉君  |
| 15) 鑄鐵の化學成分と液相線との關係に就て                                 |     | 工學士  | 山田福治郎君 |
| 16) 鋼の滿俺と熔滓  |     | 工學士  | 大石源治君  |
| 17) 本邦鐵鋼需給の現在と將來                                       |     | 工學博士 | 野田鶴雄君  |
| 18) 鐵鋼材の種類と其用途との關係                                     |     | 工學博士 | 齋藤大吉君  |
| 19) ヴァナジウム鋼の物理冶金的研究                                    |     | 工學士  | 大屋正吉君  |
| 20) 歐米に於ける小型鋼材の壓延装置及び其附屬設備に就て                          |     |      | 平井要君   |
| 21) 鋼材の燒戻殘留歪力に就て                                       |     | 工學博士 | 佐々川清君  |
| 22) 鋼材の燒戻歪力に關する比較的研究                                   |     | 工學士  | 小籾重行君  |
| 23) 鋼の A <sub>1</sub> 變態點以下の燒入に因る機械的性質を論じて鋼材の燒入屈曲試験に及ぶ |     | 工學博士 | 井口庄之助君 |
| 24) 滿俺鋼の變態點及顯微鏡組織                                      |     | 理學博士 | 村上武次郎君 |
| 25) 電氣鋼の透磁性に就て   |     | 工學士  | 中村道方君  |
| 26) 合酸鋼の二三の性質  |     | 工學博士 | 井上克己君  |
| 27) ニゼコ鋼の特徴及製法に就て                                      |     | 工學博士 | 蒔田宗次君  |
| 28) 鐵鋼の滲炭に及ぼす諸含有元素の影響に就て                               |     | 工學博士 | 高橋源助君  |
| 29) クロム鋼の燒戻と鐵クロム合金の可溶性に就て                              |     | 理學博士 | 松下徳次郎君 |
| 30) 鐵炭素系二重平衡圖に就て                                       |     | 理學博士 | 永澤清君   |
|  |     | 理學博士 | 本多光太郎君 |

以上報告候也

昭和4年3月30日

社團法人 日本鐵鋼協會

會長 理事 工學博士 服部 漸

昭和3年度收支決算報告 (自昭和3年3月1日 至昭和4年2月28日)

支出之部			收入之部		
科	目	金額	科	目	金額
會誌	印刷費	8,262.01	維持	會員會費	3,400.00
凸版	製作並別印刷代	2,393.61	正	會員會費	5,960.09
約束	郵便料	370.94	准	會員會費	4,005.80
會	合費	214.80	入	會金	256.00
借	室料	1,140.00	廣	告料	1,371.80
報	酬並手當	3,060.00	銀行	並振替貯金利息	162.22
事	務費	1,549.39	社	公債利息	3,248.20
工	學會々費	200.00	信	託金利息	227.79
原	稿料	102.28	社	債償還利息	30.00
大	會費負擔	1,236.14	雜	收	636.86
圖	會書費	52.00	寄	附金	100.00
合	計	18,581.17	合	計	19,398.76
			差	引	817.59
			圖	書	52.00
			合	計	869.59

財產目錄

昭和4年2月末日現在 (増減欄の+は増、-は減を示す)

摘要	昭和3年2月末日現在	昭和4年2月末日現在	差引増減
1. 圖書	467.81	519.81	+ 52.00
2. 什器	925.12	925.12	
3. 有價證券 (券面46,000.00) (金額44,630.50)			
第83回北海道拓殖銀行社債	3,970.00		- 3,970.00
東京電燈株式會社々債第七回丙 ¥13,000.00	12,870.00	12,870.00	
同上物上擔保附路號 ¥1,000.00		910.00	+ 910.00
東京モスリン株式會社々債第三回波丙 ¥7,000.00	6,867.00	6,867.00	
山陽中央水電株式會社々債第六回丙 ¥6,000.00	5,880.00	5,880.00	
京濱電鐵株式會社々債第四回波 ¥3,000.00		2,986.50	+ 2,986.50
東京電氣事業公債第四回甲 ¥5,000.00	4,300.00	4,300.00	
東京府農工債券第六〇回 ¥10,000.00	9,910.00	9,910.00	
4. 會誌發行擔保金			
帝國五分利公債甲路號 ¥1,000.00	907.00	907.00	
5. 約束郵便擔保金	155.00	155.00	
6. 借室料敷金	285.00	285.00	
7. 振替貯金 (金額256.17)			
振替貯金基本金	10.00	10.00	
振替口座殘高	246.17	242.76	- 3.41
8. 銀行預金	2,214.10	3,295.66	+ 1,081.56

9. 信託預金	5,000.00	5,227.79	+	227.79
10. 別刷代金立替金	417.19		-	417.19
11. 現金	12.56	14.90		2.34
合計	54,436.95	55,306.54	+	869.59

前年度對 369.00 増額

備考 外に別途資金 681.00 あり、其受拂並説明次の通り。

別途資金受拂

摘 要	受高金額	拂高金額	残高金額	
(1) 萬國工業會議寄附金 前年ヨリ持越	677.90			
同上本年度支出 900.00 <sup>00</sup> / <sub>4</sub>		225.00	452.90	
(2) 工學會大會記録代 前年ヨリ持越	130.00			
同上本年度支出		130.00	0	
(3) 研究部會費金	400.00	171.85	228.15	
合計	1,207.90	526.85	681.05	殘金四年 度へ持越

別途資金ニ就キ説明書

(1) 昭和 2 年度ニ於テ昭和 4 年秋季ニ本邦ニ開催ノ萬國工業會議經費ノ内本會ノ負擔額金 900 圓也。本會員ヨリ寄附募集シタル處昭和 2 年 9 月ニ至リ金 925 圓 50 錢ヲ得タル故同月募集ヲ締切リ其内昭和 2 年度ニ於テ金 900 圓ノ 4 分ノ 1 金 225 圓ト募集費用金 22 圓 60 錢ヲ支出シ殘金 677 圓 90 錢ヲ本年度ヘ持越シ其後上表ノ如シ。

備考 上記負擔金拂込方法ハ昭和 2 年、3 年、4 年ニ亘リ全額ヲ 4 分シ 2、3 年度ニ 2 回 4 年度ニ 2 回拂込ム規約。

(2) 昭和 2 年 11 月工學會大會ヲ舉行シ其記録ヲ刊行スル事トナリ豫約者ヲ募集シタル處 130 部ノ申込アリ(1部 定價金 1 圓也)昭和 3 年 7 月刊行ニ到リ現品引換ニ支拂ヒ現品ハ豫約者ニ配送シ殘ナシ。

(3) 本會内規ニヨリ昭和 3 年 11 月第 3 回研究部會開催ニ當リ「本邦ニ於テトーマス製鋼法採否ニ關スル研究討議」ヲ行フ事トナリ鐵鋼協議會ヨリ研究費トシテ金 400 圓也寄贈アリ其内金 171 圓 85 錢也ヲ支出シ殘金ハ議事整理費及研究續行費ニ充テルモノナリ。

昭和 4 年度收支豫算

(自昭和 4 年 3 月 1 日  
至昭和 5 年 2 月 29 日)

支出之部				收入之部			
科	目	金額		科	目	金額	
會誌	印刷費	8,640.00		維持會員會費		3,400.00	
凸版	寫真銅版製造費	1,824.00		正會員會費		6,633.00	
別刷	印刷費	576.00		准會員會費		4,212.00	
原稿	印刷料	156.00		入會金		100.00	
約束	郵便料	414.00		廣告料		1,600.00	
事報	酬及手當	1,600.00		銀行豫金及振替貯金利息		150.00	
借會	室合器書	2,730.00		社會債公債利息		3,000.00	
什圖	學會費	1,140.00		雜誌分讓代金		500.00	
工豫	備費	300.00		雜信託金利息		100.00	
		100.00				300.00	
		50.00					
		200.00					
		2,265.00					
合計		19,995.00		合計		19,995.00	

上記之通り報告候也

昭和四年三月三十日

社團法人 日本鐵鋼協會

會長理事 工學博士 服部 漸

○會長(服部漸君) 是カラ議事ニ移リマスガ、先ツ皆様ニ御諮リヲシタイコトハ役員ノ投票ノ開票デアリマスガ、是ハ時間ノ節約上例年ノ通り別室デ行ヒタイト思ヒマス、付キマシテハーツ御立會ヲ願フ人ヲ指名シタイト考ヘマスガ、御異議ハゴザイマセスカ。

[異議ナシト呼ブ者アリ]

○會長(服部漸君) サウスルト御迷惑デゴザイマスガ、島岡サント平川サンニ御願ヲシタイノデゴザイマス、ドウゾ…ツレカラ會務ノ報告ノコトデゴザイマスガ、是ハ皆様ノ御手許ヘ差上ゲテアリマスル、是モ亦時間ヲ節約スル爲ニ朗讀スルコトヲ省キマス唯此報告ノ内デニ三重立ツタコトヲ申シマスルト先ツ會員ノ異動ノコトデゴザイマスガ、現在 1371 名デゴザイマシテ、前年カラ較べルト 36 人ヲ増加シテ居リマス、ソレカラ亡クナラレタ御方が 14 人アリマシテ、誠ニ會員ヲ失ツタコトハ哀悼ノ至リデアリスマルガ、中ニモ名譽會員ノ中村男爵ガ御亡クナリマシタ、製鐵業ノ爲ニ長ク盡サレタ名譽會員中村男爵ヲ失ツタコトハ遺憾ナコトデアリマス、ソレカラ維持會員ハ 4 月現在デハ 24 人デ、前ノ 4 月ト對照イタシマスルト 10 人殖エ、口數デ 11 口殖エマシタ、現在デハ 34 口ニ増加シタノデアリマス、是モ本年ハ一層増加ヲ願ヒタイト考ヘテ居ルコトデアリマス、次ニ講演會ハ僅ニ 2 回デアリマシタガ、大阪ニ於テノ大會ハ講演者ノ數ガ 25 名ト云フ數ニ達シマシタ、頗ル盛況ヲ極メタ譯デアリマス、又研究部會モ僅ニ 1 回デアリマスルケレドモ、重要ナル 2 問題ニ付テ諸君ノ高説ヲ拜聽スルコトガ出來マシタコトハ誠ニ結構ナコトダト思ヒマス、會計報告ニ付キマシテハ御手許ニ出テ居ル書類デーツ御覽ヲ願ヒマシテ御質問ガゴザイマスレバ御提出ヲ願ヒタイト思ヒマス、要スルニ財産ノ増加ハ此方ニ擧ゲテアリマス通り結局 869 圓ト云フモノガ増加ニナツテ居ル、デ收支決算豫算等ハドウゾ此書類デ以テ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、何か御氣付ノ點ガゴザイマシタラ、ドウゾ御話ヲ願ヒマス、若シ御質問ガゴザイマスレバドウゾ…茲ニ一ツ皆様ニ御相談ヲ申上ゲテ置キタイト思フコトガゴザイマスルノデ、事實ハ明瞭ナコトデアリマス、併ナガラ定款ノ改正ト云フコトニナリマスノデ、總會ヲ開カナケレバナラヌヤウナ關係ノ事務デアリマス、ソレハ日本鐵鋼協會ノ事務所ノ所在地ノ町名番地ガ變更ニナリマスノデ、有樂町一丁目一番地ガ丸ノ内三丁目ト云フ風ニ町名ノ變更並ニ番地ノ變更ガアルノデアリマス、然ルニ番地ノ變更ハ 4 月ノ 15 日デナイト分ラナイサウデアリマス、ソコデ今日ノ總會ガ終リマスト 2 週間以内ニハ文部省ヘノ届若クハ裁判所ノ登記ト云フヤウナ手續ヲシナケレバナリマセヌガ、4 月 15 日デアルト云フト、愈々變更ニナツタ曉復タ定款ノ改正デアリマスカラ臨時總會ヲ開ク必要ガ起ルノデアリマス、ケレドモ事柄ハ從來アル町名番地ガ變ルト云フコトニ過ギマセヌノデ、形式ハ…書類ハ拵ヘテアルヤウナ譯デゴザイマス、デ愈々番地變更ノ通知ガアレバ日付ヲ入レテ直クニ提出スルト云フコトニシテ、臨時總會ヲ形式上開イタト云フコトニシタイト思ヒマス、是ハ豫メ御承知置キヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス、如何デゴザイマス、是ハ外ノ所デモ皆大分問題ニナツテ居ルヤウデアリマス、ワザニ其爲ニ又臨時總會ト云フコトハ如何ニモ馬鹿々々シイト思ヒマスノデ、方法ヲ講ジタ結果文部省アタリノ方トシマシテハ唯形式ダケ總會ヲ開イタト云フ形式ニナツテ居レバ宜シイト云フコトデアリマス、其爲ニコ、書類ハモウチヤント出來テ居リマス、チヨツトコ、デ讀ミマセウ…「社團法人變更登記申請」ト云フ名稱デアリマス、「名稱、日本鐵鋼協會、事務所、東京市麴町區丸ノ内三丁目何番地」ト云フノガ是ハ決マラス爲ニ書入レル「登記ノ目的」ハ「定款變更登記」ト云フノガ目的、「登記ノ理由、昭和四年四月幾日」…之ヲ入レナクチャナラス、「其事務所所在地町名番地變更ニ付改正登記ヲ求ムルノ件」、之ニ…委任狀、臨時總會決議錄、定款ト云フヤウナモノヲ添ヘテ出サナクチャナラス、臨時總會決議錄ト云フヤウナモノハ變更ニナツテカラ出來ルベキモノデアリマスケレドモ、事柄ガ明瞭デアリマスカラ決議錄モ拵ヘテアル、形式トシマシテハ出席正會員何名、委任狀何通ト云フヤウナ形式デ拵ヘテアル、變更ノ日ガ決マリマシタラバ、其日ヲ書入レテ出シタイト思ヒマス、定款改正ニ關スル其第一章第

一條、「本會ハ日本鐵鋼協會ト稱スル社團法人トシテ事務所ヲ東京市麹町區丸ノ内三丁目何々番地ニ置ク、但シ必要ニ應シ支部ヲ置ク、其位置ハ評議員會之ヲ定ム」ト云フヤウナコトニシテ居リマスカラ、ドウゾ是ハ明瞭デアリマスノデ、唯日ヲ書入レテ之ヲ出スト云フコトニ一ツ御承認ヲ願ヒタイ、豫算其他決算ノ方ハ是デ御承認ヲ得タコトトシテ宜シウゴザイマセウカ。

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○會長(服部漸君) ソレデハ是デ決定シタモノト致シマス、次ニ投票ノ結果ヲ開票委員ヨリ御報告イタシマス。

○島岡亮太郎君 立會人ト致シマシテ評議員ノ選舉ノ結果ヲ報告イタシマス、茲ニ御當選ノ方ノ氏名ヲ申上ゲマス、得票數ハ128票ノ方が多ネノデアリマスガ、其他ノ方モ唯一二票ノ差デ皆御當選ニナツテ居リマスカラ、特ニ票數ハ申上ゲマセヌデ御名前ダケ申上ゲテ置キマス。

磯村豊太郎君 一色虎兒君 今岡純一郎君 井上禧之助君 井上匡四郎君 西野惠之助君 本多光太郎君 大石源治君 大河内正敏君 大出善一君 桂 辨三君 景山 齊君 金原信泰君 吉田豊彦君 立石信郎君 堤 正義君 向井哲吉君 鷗瀨新五君 野田鶴雄君 松田貞治郎君 松下長久君 舟越樺四郎君 江藤捨三君 鮎川義介君 三輪時雄君 斯波忠三郎君 白石元治郎君 島 安次郎君 島岡亮太郎君 末兼 要君

以上御當選デアリマス、ドウゾ宜シク……

○會長(服部漸君) 是デ議事ヲ終リマス、續イテ是カラ講演ニ移リマス。

午後3時34分散會(講演會ニ移ル)

## 講演會概況

場所以上同斷にして今回の御講演者は製鐵所技師平川熔鑛課長並大同電氣製鋼所川崎舍常務取締役の御兩氏にして其要旨は次の如し

### 演題及氏名

#### 一、熔鑛爐の研究ニ就いて

八幡製鐵所技師 工學士 平川良彦君

本講演は主としてローガンク即ち熔鑛爐に於て生鑛降りの研究を發表するものにしてローガンクの原因、熔鑛爐操業法、裝入方法及原料との關係並に羽口破損の原因に就き解明し熔鑛爐のプロフキルに及び最後に研究室に於ける熔鑛爐の研究及熔鑛爐の内部浸蝕に關する考察を述べ以て熔鑛爐作業に關し重要なる諸件を解決し製銑量を増加せしことを知らしめ聽者をして學理の應用が如何に工業上有益なるやを首肯せしめ頗る有益なる講演なりき

### 演題及氏名

#### 一、歐米に於ける電氣製鋼爐最近の傾向

株式會社大同電氣製鋼所 常務取締役 工學博士 川崎舍恒三君

先づ型式よりする各種電氣爐最近の傾向を述べ誘電式爐の使用稀少にしてエル式電氣爐の全盛を述べ次で形狀並に構造より見たる現況を述べ圓形にして構造の簡單なるもの多く電氣設備は益々複雑となり以て爐の操業をして容易ならしむることを述べ最後に最近發表せられたる電氣設備の一二を説明し冶金家の要求に従ひ満足なる電氣爐を呈供することが目下の急務なることに結言せられ之れ亦電氣製鋼に關し多大の參考となれり

## 晚餐會

午後6時 以上の場所に於て開會し出席者 服部會長 香村博士 俵 博士 種子田理事 川上常務委員 原田鎮治君 大塚榮吉君 梅野 實君 向井哲吉君 島岡亮太郎君 各評議員 川崎舍恒三君 平川良彦君 各講演者 山野好恭君 松浦春吉君 深田辨三君 佐々木彦太郎君 樋口喜六君 杉村伊兵衛君の諸氏合計19名にして宴正に盛んなるに至り例に依り卓上5分間演説となり其速記次の如し

## 日本鐵鋼協會晚餐會席上五分演說速記

○會長(服部漸君) ちよつと私から御挨拶を申し上げます、本月の大會も皆様方の御參會に依りまして頗る盛況を極めまして感謝いたすのであります、殊に講演者諸君は御遠方の所からも御出で下され頗る有益な御講演を賜りまして有難い仕合せであります、本會の此例會に於てはいつもの例に依りまして五分間演說をして載きたいと思ひます、どうぞ私から指名することを御許しを願ひたい、原田さん……

原田鎮治君 御指名に預りましたけれども、一向持合せもありませぬ、毎年來ます度に本會が盛大に赴きますことは是れ偏に理事者諸君並に會員諸君の御努力に依るものであると思ひます、尤も本會としてはいつも食卓に着くと云ふ方は少い、是は甚だ色々な方が混らないで、さうして共に進んで行く御方だけだから斯う云ふ、譯だらうと思ふ斯く盛大に行くのは又一方考へて見ると我國の鐵鑛なり又製鐵業に必要な諸機關に於て甚だ便宜少い我國に於て今日の如く毎年盛大に行くこととは今日參列された諸君の熱誠なる御研究の賜と大いに敬意を表する次第であります、私も先年此製鐵業に首を突込みまして苦い經驗を嘗めたのでありますが、なかゝら此事に當る人はこゝに服部さんなり香村さんなり大學の先生なり色々な方が御出でになります、皆さん方が非常な御努力の爲に今日斯う云ふ風な盛況に進んで來たのでありまして甚だ感謝する次第であります、こんなことを言つて居りますと際限ない次第であります、私は今日の御集りを機としまして、所謂チンドン屋になりまして、日本鑛業會の會館のことに付て宣傳したいと思ひます、是は皆さん御承知でございますが、大正 12 年の震火災に付てばつと燃えてしまつて、それから無くなつて居りました、初は六七千圓の金を以て假に事務所を拵へてやつて見ました所が、區劃整理の爲に取拂はれて換地を日吉町に貰ひました、さう云ふやうなことがありまして、建造物に付ての補助金なり或は移轉に付ての權利金なり、又集りました金なり四萬圓程出來ました、さうして八萬圓程皆さん方の御盡力に依りまして集まりました、之を以て會館を作ることになりました、其色々實行に付て努力して來たのであります、併し漸く皆さん方の御盡力で昨年六月地鎮祭を行ひまして七月起工しました所が、漸く來月の總會までに間に合ふことにしてどうか斯うか出來上がる譯であります、それが出來上がりますれば總會を……詰り鑛業會で講演なり又其他の會場に使ひ、又外の學會にも御便宜を與へて大いに使つて戴きたいと思ふのであります、其他小さい部屋が十八九ありますが、ぼつと申込がありますが、何かの會なり個人なり御紹介を願ひたい、頗る便利な土地でありまして、新橋から二三分、土橋からも近い、竹川町からも近い、又銀行には都合が宜いと云ふ所であります、どうぞ御利用下さるやうに今晚の御集りを機として願つて置きます。

○會長(服部漸君) 次は前會長の香村君に願ひます。

香村小録君 會長から御指名を受けまして立たざるを得ないと云ふ譯であります、實はさう云ふことがあるかも知れないと思ひましたけれども、もう私のやうな年寄は御免を蒙つて、若い御方に御喋りをして戴きたい積りて居りました、ところが今日御集りが少くて、若い御方も比較的少いやうな感じも致しますが、私は何にも別に申上げることもありませぬが、唯ちよつと今日の總會に關して昔を思出したことを申し上げやうかと思ひますのは、今日は日本鐵鋼協會の第十四回の總會でございますが、此會の成り立ちは我々の先生の野呂博士が先づ第一の發起人でありまして、さうして此日本鐵鋼協會が出來ました、それから野呂博士は色々其境遇に對しては何かと面白からぬ點もあつたかも知れませぬが、兎に角日本の今日の製鐵業が段々に進行して來た其初に當つての最も功勞者の一人であるやうに思はれますので、先程平川さんの御講演の内にも熔鑛爐に對する或サジェネションを與へられて、平川君も之に依つて御研究の方針を御進めになつたやうなこともあつたやうに承りますので、先生が今日居られたならば大變喜ばれるだらう



うと云ふ感慨に打たれました、丁度野呂博士は震災の年の今月……其年の三月の鐵鋼協會の總會に臨まれて、其歸宅の途中に風を引かれたのが元になつて遂に起たずと云ふやうな事になつたと云ふことも矢張り此會に縁があるやうやうに思はれますので、我々親しく薫陶を受けた身になつて見ましてちよつと今日感慨を深くしたやうな次第でありますので、此事を自分の思ひ出した所だけを申上げて見たいと思ひましたやうな次第であります、是で……

○會長(服部漸君) 今度は一つ、評議員の大塚さん、何か……

大塚榮吉君 西風が吹きまして西へ西へと廻ると思つて居つたら、突然東風が吹いてこちらに廻つて、私が御指名になりました、別に申上げることもありませぬが、昨年から本年は製鐵業者の當り年で大いに御祝があつても宜いかと實は思つて居るのですが、丁度今泉さんが御歸りになつたやうですが、今泉さんが代議士になつて出て居られる時分に鐵の關稅改正問題があつて、其時には大藏省の矢部技師は一噸三十圓、噸二百圓に對する一割五分、三十圓に決めやうと思つて居つた所が、今泉さんは、三十圓はいかぬ、一割五分でなければならぬと言つて今少し上がるやうに思つて居つた、ところが段々下がつてしまつた、大抵考へて見ると是は波を打つて居るもので、此間も私は濫澤さんに會つた時に、濫澤さん用心なさらぬといけませぬ、此波は高い所に上ぼつて居つて、今に下へ向きますと申しますと、さうか知らんと仰しやるので、餘程御用心なさらぬといけませぬと申しましたが、併し今日は景氣が好くて大變御利益になつて居ると思ふが、こゝに餘程研究すべきことぢやないかと思ふのは、下り坂の百圓の時には御利益が無かつた、ところが一噸八十圓の關門を潛るまで下つて、そこで手一杯になるやうになつたのが上つて來たから大變に御利益があるやうになつて、昨年から本年は製鐵業者が當年だと申上げることが出来るので、矢張り窮すれば通ずで、極度まで難儀するのは非常に良いことぢやないかと思ひます、一つ其意味に於きまして鐵鋼協會なども震災後大分御困難の時もありましたが、先程會計報告を拜見するとなかま御裕福なやうに承知するから、大いに御發展の計畫があつて宜しからうと云ふことをちよつと感じましたので、此機會に私の希望だけを申上げて置きます。

○會長(服部漸君) 今度は一つ……今日御講演を願つたので甚だ恐縮ですが、川崎舍さんに願ひます。

川崎舍恒三君 唯今會長閣下から御指名を受けました、私は先刻甚だつまらない講演をやりましたが、時間を超過することと思つて……十五分ばかり……最早責任は無いものと思つて居りました、意外にも御指名で甚だ恐縮いたしました、何か一言申上げなければならぬ譯でございますが、聽いて見ます所本夕は大變御老人……と言つては失禮ですが、御若い方が餘り御見えにならないと云ふことで、とうも近來益々活氣満ちて居る鐵鋼協會の總會としては甚だ物足りないやうに思ふ、思ふに是は本會の慣例として晚餐會に出席すればテーブルスピーチを強制されると云ふやうなことが若い方が出ない一つの原因ぢやないかと云ふことを恐れましたので、成るべく若い方には馴れない話を強ひないやうに今後御注意になれば、或は若い人が今後段々出るやうになる、さうすると色々新しい若い空氣も這入るだらう、ちよとさう云ふことを考へましたから、失禮かも知れませぬが、ちよつと申上げて見たいと思ひます。

○會長(服部漸君) 唯今戦法を御教授下さいました、今度は一つ御老人で俵君に……

俵國一君 私は何も申上げることはありませんが……今日の御講演に付ては先程會長から十分に我々を代表して御話下さつたのでありますが、ちよつと其事に付きまして御話したいと思つて居ります、役員會の方で此總會にはどなたを御願するかと云ふ議が出ました時に私が御二人に御願したら宜からうと云ふ發議者でありました、それで御二人にわざと遠方から御出でを願つたのであります、そこで一方は熔鑛爐、實際の仕事を課長としてやつて居られる、一方は大同製鋼の常務で居られる、其御二人が御出でになつて御講演下さることは大變協會としては有難いことであります、尙ほ今日の講演を願ひました自分としては丸で御二人の聲を聞きながら酔つたやうな氣持で一語洩らさずと云ふやうな勢で拜聽しましたやうな譯で、どうも西洋の會に於きましても實地のことは餘り講演がなく理論に走つ

ていかぬ、斯う云ふやうなことは始終あります、日本の協會に於きまして今日の御講演などは御二人とも實際の仕事をやつて居られる、其御二人が西洋を見なすつて極く觀察の行届いた御講演を大變有難く感じました、殊に役員會でどうかやつて戴きたいと考へて居つた私としては非常に有難く感じて居りまするので、此懇親會の席を利用して御禮を申したいと考へて居るのであります、尙ほどうも此會の懇親會には誠に初から出席が少い、どう云ふものでありますか、秋の大會には昨年など三百名も出ました、非常に秋の會は振ひますが、春の總會は前から甚だ振はない、何とか一つ方法を講じて、又其他色々考へて、今の川崎舎さんの御注意の點もあると思ひますから、何とかしなくちやならぬと思ふのであります、ちよつと……

**會長(服部漸君)** 色々皆様から御話を承りまして、茲に私が御吹聴申し上げたいのは、本日の此會を……今俵さんの御話のやうな次第もあつたからであります、鹽田君から御旅行の途中から電報が参りまして、大いに聲援を興へて下さるやうな電報でありますから、之を御吹聴いたします、発信は神戸でございます、『御盛會を祝す、鹽田泰介』大いに此一つの電報で以て聲援を得て、俵君の仰しやるやうに盛になつたやうな次第で、皆さんにちよつと御吹聴申上げる次第であります。

**○會長(服部漸君)** 次は向井さんに御願します。

**向井哲吉君** 私は今日平川さんの御話を聽いて極く昔のことを思ひ出したのであります、それは俵君なども親しく教授を受けました獨逸のレデブルと云ふ先生、先づ神様のやうな先生であります；其人の仰しやるのに、熔鑛爐の形と云ふものは今こそ上が小さくて下が開いて居る形だが、元來は是は圓筒形のものだ、と云ふやうなことでありましたが、段々中の形が變つて來る所を見ますと、どうも矢張り先生が今から四十年ばかり前に言はれた、且先生の著して居られた本の第二卷の熔鑛爐の所に確に其事が書いてあると云ふことを記憶して居りますが、それを考へ出して大いに感じた次第でありましたが、尙ほ色々平川君なぞの御研究に依つて實際シリンダーに日本で一番最初にするやうに御盡力を願ひたいものだと思つて居ります。

**○會長(服部漸君)** 今度は一つ、梅野さん……

**梅野實君** 私は元來製鐵の方の關係には専門的に飛離れて居る男であります、ところが原田さんの御供を致しまして兼二浦に参りました、是が一度私が製鐵に携はる初でありまして、元來は鐵道屋でありました、當時製鐵所の出來る時代に御厄介になつて行つて居りました、多少興味は持つて居りましたが、何や彼やで三菱に御厄介になつて兼二浦に行つて居りまして、飛んでもない失敗を致しました、それから滿鐵に行つた、矢張り本業に戻るのだから宜い譯だがどうもさう行かない、再び滿鐵に行つても撫順と製鐵に到頭やられるやうになりまして、とどの詰りは………御仕舞には炭坑で御仕舞になる、御仕舞には本業の所で御仕舞になるやうな譯でありまして、遂に燃料協會から斯う云ふ所に引張り出されると云ふ譯であります、原田さんには御世話になりました、殊に又俵先生には色々な所で御世話になりました、それが爲に今日の鞍山がどうにか物になりましたことを自ら衷心非常に喜んで居ります、尙ほ又今日の平川君の御話を聽いて見ますと自分は非常に感慨に打たれますのであります、私は元來専門でないから如何と思ひますけれども、斯う云ふやうな御研究を熱心にやつて下されて、今日では熔鑛爐なるものが一つの主義の下に自由に支配されて行く、斯う云ふやうな御話を聽くと云ふと、兎に角其事のみで日本の製鐵業と云ふものが將來確かである、斯う云ふやうな觀念に今日はひどく打たれましたのであります、曾ては日本の製鐵はどうであるとか、是非是はやり上げなくちやならぬとか、關稅がどうの政策がどうのと云ふ話を聽いて居るが、今日の御話を承つて見ますと兎に角確に製鐵の事業も將來がある、仕事の方面から言つても、又色々な材料の蒐集の方面から行つても、製鐵を大成し、東洋の方面に自ら貢獻するばかりでなく、將來は東洋の方面にも自らやり得ると云ふ自信を持ち得るやうな

御話を聞いたのみであります、此點は専門でありませぬけれども、今申上げるやうにこちらに御厄介になつて居りました頭から非常に心強く思ふのであります、どうか此鐵鋼協會もさう云ふやうな傾向になつて來て其曙光が見えると云ふことに於きまして、先輩の御指導、又若い御方々の御奮闘に依りまして益々其事が確に成就し御發展あらむことを希望いたします、私の専門ではありませぬけれども、自分の一生の内に其果實を見るやうなことになるたいと考へるのでありますから、此席を利用して一言……

○以上の席上演説を終りたる後深田辨三氏より特許に關し次の如き意思を發表せられたり。

**深田辨三君** 私は大同製鋼の深田と申します、今ちよつと川崎舎から注意がありまして、今夜皆さんの智慧を借りて御指導を願つて、どうかして國家の爲に良い解決をして載きたい問題があるのでありまして、ちよつと調べて居る者であります、其御話を致しましてどうか御指導を願ひたいと思つて居ります、それは合金鐵のпатентの出願が英國から出て居るのです、それが此間も俵先生の所へ伺ひまして御指導を願つたのでございますけれども、其請求の範圍とか性質などと云ふものを讀みますと云ふと、丸で冶金の第一頁に書いてあるやうなことがちよつと書いてあるのです、それで斯う云ふやうなことが若し日本のпатентとして許されるならば日本の鐵石から金屬を取る方法と云ふものは全部束縛される形式になるのでございまして、斯う云ふものを若し……斯う云ふことは云つて宜いか悪いか分りませぬが、尤も特許公報に出たのですから、或は認められるかも知れませぬが、どうも私共として臆に落ちない、取敢へず緊急に抗議を申込む手續だけは致しました、之に付きまして私共がやるべき……ことに有力な材料でもございましたならば御指導を願へば結構だと思ひまして、甚だ失禮でございますが、其出願の内容をちよつと讀まして載きたいと思ひます、それは今年の二月一日のに出て居るのが一つ、特許公報の二月二十一日のと二つあります、一つは斯う云ふのです、合金製造法、特許請求の範圍、本文に詳記せるが如く、爐内に金屬を装入し、之を熔解し、鐵滓を形成すべき物質を加へ、斯くして生じたる鐵滓上に其金屬酸化物又は他の金屬酸化物を含有せる鐵石及び該金屬酸化物に對し發熱反應を起す還元劑を投入して鐵石を熔解し、金屬酸化物を還元し、右還元金屬を鐵滓の下にある熔融金屬中に入らしむるが如き合金の製造法、斯う云ふのです、私共としては之を實行して居るのが冶金だと思つて居るのです、それからもう一つは、本文に詳記せるが如く適當なる鐵を爐に装入し熔解せしめ、更に酸化性の珪酸石灰質の鐵滓を生成せしめ、此鐵滓に酸化鐵並に酸化クロームを含む鐵滓を加へて之を熔融したる後更に該鐵滓の上に無水珪酸及びクローム及び鐵の酸化物を含む鐵石と是等を還元するに十分なる發熱還元劑とを添加することに依つて所要量の鐵及びクロームを含有し、珪素を全く又は殆ど全く含有せざる鐵合金を製造する方法、斯う云ふのであります。

○午後九時三十分散會